

日本赤十字放射線技師会

日 赤 放 技 ニ ュ ー ス

平成20年度 第2号

発行日 平成20年8月

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・

『もっとクロス！もっとユビキタス！』

日本赤十字放射線技師会
常任理事 新美孝永

お知らせ

日本赤十字医学会総会のご案内
会費納入について
会誌投稿のお願い

本会の動き・・・・・・・・・・・・・・・・

ホームページリニューアル後の対応について
組織調査報告
分科会活動
業務研修会速報
定期総会議事録
会員動向
第6回常任理事会議事録
第1回全国理事会議事録

『 もっとクロス！もっとユビキタス！ 』



日本赤十字放射線技師会

常任理事（企画部）

新 美 孝 永

所属：名古屋第二赤十字病院

赤十字病院は、山形、奈良、宮崎を除く全国を網羅する形で存在しており、そこで勤務する診療放射線技師にも最先端機器を取り扱う者から胸部撮影までと技術的に大きな広がりがあります。しかし、世間ではメディアを通して非常に多くの情報が溢れ、時に関係者よりも受診者の方が詳細な医学的知識を有し、その対応に困惑することもあります。その際、施設が大きいから・・・小さいから・・・という言い訳はユビキタス社会と称される現代ではもはや通用しません。ユビキタス社会とは、「いつでも、どこでも、誰でもがコンピューターネットワークをはじめとしたネットワークにつながることにより、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会（Wikipediaより）」と言われております。現在、日本赤十字放射線技師会（以下日赤放射線技師会）では、多様な医療現場で勤務する会員の技術支援策として、日赤ホットライン計画（会員同士が気軽に相談できる窓口の構築）を推進中です。その一手段として、コンテンツマネジメントシステム（CMS）を搭載した双方向通信が可能なホームページ（HP）を今年6月より開設しました。CMS搭載により、全会員にIDとパスワードを配布することで、会員以外には公開できない機密情報も赤十字病院間で共有できるようになりました。また、HPへのコメント書き込みが容易にできるためリアルタイムな情報交換が可能となりました。しかしながら、この記事を読んで「こんなHPは日赤放射線技師会には必要ないのでは？」とか「ユビキタスな技師会運営なんて人間味が無い」などと年配の会員から疑問の声が上がるかもしれません。かく言う私もユビキタス社会には不慣れで、むしろ友情、信頼は「酒と喧嘩」から生まれることを信じる一昔前の人間です。しかし、全国に広く分散する会員の皆様と直接お会いして酒を酌み交わす（議論する）ことは到底できません。やはり現実的には、ネットワーク技術に頼らざるを得ません。日本赤十字社も「もっとクロス！計画」というキャッチコピーを作成し、社会、市民、時代、そして職員相互の関わりを深め、社会全体としての（赤十字）活動を推進しています。ところが、クロスするにしてもよい相手が必要となりますが、幸い本会には厳しい採用試験をパスした非常に優秀な人材が多数揃っております。各自の持つ高い能力をクロスすることでこれまでに無い新しい発想や知恵が生まれ、そのパワーは、必ずや他の職域を圧倒するものとなるでしょう。ユビキタス社会といわれる現代、赤十字病院のネット環境は急速に整備され、いつでも、どこでも接続できる状況になろうとしています。本会は、このネット活用の先駆け団体として「ユビキタスネットワークを活用し、診療および災害支援を目的とした21世紀型職域団体をめざす」という新たな目標を掲げて船出することとなりました。現在推進中の日赤ホットライン計画は、1200余名の会員の英知を集結させ、将来に向けて非常

に心強い存在になるものと考えられます。そして、その発展系として、他の職域とのクロス、さらには、いつしか世界を舞台に活躍する人材が我々赤十字の仲間から輩出されること、これが今一番の願いです。

会費納入について

日本赤十字放射線技師会 財務部

平成20年度の日本赤十字放射線技師会会費の納入をお願い致します。

日本赤十字放射線技師会の運営は、会員の皆様の会費にて成り立っております。会費の納入は、日本放射線技師会会費納入規定により当該年度当初に納入するものとなっております。円滑な運営のため、早期の納入をお願いいたします。また、本社研修会時においても受付をいたしますので宜しくをお願いいたします。

1、会費額

現会員	3,000円(年会費)	3,000円
新入会員	3,000円(年会費) + 1,000円(入会金)	4,000円
再入会員	10,000円(再入会金)	10,000円

* 会費三年間未納の場合退会とし、再入会金は10,000円とする。
(日本赤十字放射線技師会会費納入規定より)

2、納入方法

会費の納入は、日本赤十字放射線技師会財務担当まで銀行振込にてお願いいたしております。(振込みにあたっては個人名ではなく病院名でお願いいたします)

口座名

日本赤十字放射線技師会 一般会計 前川栄寿

口座番号

京葉銀行 成田支店(311) 普通 8052321

3、お問合せ

振込に関する事、請求書に関する事など、会費納入についてご不明な点等ございましたら、担当者までご一報いただければ幸いです。

日本赤十字放射線技師会 財務部 前川栄寿

(所属) 成田赤十字病院 放射線科部

(電話) 0476-22-2311

(メルアド) booster@u01.gate01.com

会誌投稿のお願い

日本赤十字放射線技師会 広報部 清水文孝

日頃より会員の皆様には、会の運営にご協力、ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年度の技師会ニュース及び会誌発行を例年通り実施してまいります。つきましては、会員の皆様には、施設紹介、新入会員紹介等に関わらず、ご投稿をお願いいたしたいと存じます。また、業務研修会等におきましては、ご指名にて執筆をご依頼いたしたいと考えておりますので、投稿依頼状がお手元に届きましたならば、ご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。

更に、学会等でもご活躍の会員の皆様が、多々いらっしゃると思います。そこで、学术论文、速報論文、原著論文等も当会誌にも投稿していただければ幸いです。また、会員の皆様には、様々な領域において、素人の域を超えた方もいらっしゃると思います。そこで、その様な会員の皆様に投稿していただきたいことや会員の紹介をしていただければ幸いです。紹介をしていただいた場合、広報部より改めて執筆依頼をお願いいたしたいと思っております。

技師会ニュース年3回、会誌年1回の発行という事もあり、時事に即していないとのご指摘もあろうかと存じますが、運営上のこともご理解いただき、様々な投稿をお待ちしております。

尚、投稿に関しましてご質問、問い合わせは下記までお問い合わせください。

投稿方法について

各論文、一般投稿等については、原稿を作成した機種、ソフト名を記載し下記のメールアドレスまで添付してください。

掲載

投稿日時及び内容につきまして検討させていただき、技師会ニュース若しくは会誌掲載とさせていただきます。

問い合わせ及び投稿について

日本赤十字放射線技師会 広報部代表 清水文孝

施設名：深谷赤十字病院 放射線科部

住所：〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西5-8-1

電話：048-571-1511（内）1218

メールアドレス：frc-xp@tbe.t-com.ne.jp

ホームページリニューアル後の対応について

広報部 清水文孝

55周年記念事業として、本会ホームページがリニューアルいたしました。先般のホームページを一新し、白と赤を記帳とし、清潔感あふれるものに仕上がっていると思います。会員の皆様に何度もアクセスしていただくことにより、様々な情報が盛り込まれた内容になるものと思われまます。

今後のホームページ活用の予定といたしまして、技師会ニュースのホームページへの移行が開始されます。完全移行とはなりません、徐々に機能をホームページへと移行していきます。会員の皆様におかれましては、本会の趣旨につきましてご理解いただき、ホームページへのアクセスをお願い申し上げます。

組織調査等について報告並びに御礼

組織調査部 石田智広

1. 平成20年度会員調査のお礼

平成20年度分の日赤技師会員調査は各施設のご協力を得まして滞ることなく終え、会員名簿を一新致しました。ご協力に感謝申し上げます。なお、平成20年5月30日時点での会員数は下記の通りです。

□正会員数：1,196名（仮登録者含まない） □新入会申込者（仮登録）：50名

※ 仮登録された方は、速やかに「入会申込書の送付」と「会費納入」をお願いします。

※ 入会手続き等については、ホームページ又は事務局（松江赤十字放射線科部）までお願いします。

2. 「認定資格取得状況調査」、「医療技術部設置動向調査」のお礼と結果について

平成19年12月「日本赤十字放射線技師会員における認定資格の取得状況調査」並びに各施設の「医療技術部設置状況とその動向調査」を行ないました。

調査では対象93施設中87施設からご回答を頂き、各施設状況を把握する事のできる貴重な情報収集が行なえました。誠にありがとうございました。

調査結果についてはホームページへ掲載いたしましたので、各施設の事情と照らし合わせの上ご参考にして頂ければ幸いです。

分科会活動報告

学術部 久保田 利夫、浅妻 厚

HPの全面改訂に伴い、会員専用ページに各分科会の掲示板を開設しました。会員ならどなたでも、書き込み可能です。ご利用をお願い致します。学術部では各分科会専用MLを作成すべく皆様に分科会登録をお願いしてまいりました。しかし、開設したHPの掲示板が、分科会専用MLと同等以上の機能を有し、さらに会員ならどなたでも参加可能なことから、分科会登録制を廃止させていただきます。また、今後はHPをメインに分科会Newsを発信させていただきます。ご理解とご協力を賜るようお願い申し上げます。

分科会活動が始まり約10ヶ月が経ち、その間MLまたは新旧両HPを使って分科会Newsを6回発信しました。以下に3号以降のNewsなどを掲載します。

1 分科会News

RCART 分科会 News. 003

乳房画像分科会アンケート集計速報
Mar. 2008

マンモグラフィに関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計作業も終了し、皆様に情報を順次公開していく予定です。今回は第1報として、装置系集計を配信いたします。

回答施設数

74施設 / 94施設 (78.7%)

装置設置施設

70施設 (80台) / 74施設 (94.6%)

装置導入年度 () 内は導入台数

1994 (2)、1995 (5)、1996 (1)、1997 (5)、1998 (4)、
1999 ()、2000 (4)、2001 (6)、2002 (5)、2003 (5)、
2004 (10)、2005 (10)、2006 (13)、2007 (6)、2008 (1)、
不明 (2)

装置シェア

GE 35% 東芝 25% シーメンス 18.8% 島津 6.3%
アコマ 2.5%

仕様基準装置

78台 / 80台 (97.5%)

デジタル処理

59台 / 80台 (73.8%)

モニタ読影環境

12台 / 59台 (モニタ・フィルム併用6台含む)

JRCART分科会News. 004

MR分科会 アンケート集約 乳房撮影：第一報

Apr. 2008

2008年の1月に、MRの医療安全および乳房撮影に関するアンケートを送付し回答を得ました。そのアンケート結果を集約しましたので、随時報告していきます。今回は第一報として、乳房撮影のアンケート結果①を報告します。

◎調査方法

対象：MR装置が導入されている65施設の放射線部・管理者にアンケート送付

回答：65施設（回答率100%）

時期：2008年1月～2月

平均病床数：約460床

◎乳房撮影のアンケート結果①

一般撮影した後、精査にはMRIかCTか（施設数）

CT（15施設）、MRI（28）、両方（7）、どちらも行わない（10）、回答なし（5）

①月当たりの全MR件数における乳房検査の割合（施設数）

0%（9施設）、～1%（26）、～2%（11）、～3%（6）、～4%（1）、～5%（2）、～10%（1）、回答なし（9）

②月当たりの乳房検査数（施設数）

0件（15施設）、1件（10）、2件（6）、3件（3）、4件（4）、5件（3）、6件（3）、7件（2）、10件（3）、12件（3）、13件（1）、20件（3）、21～30件（1）、回答なし（5）

③造影率（造影率＝造影の件数/全件数）

0%（単純のみ：1施設）、50%（2）、100%（必ず造影：37）

次回は撮影方法やダイナミックなどについて報告します。

JRCART分科会news.005

アンケート結果のHP掲載のお知らせ

Jun. 2008

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

業務研修会で報告いたしました乳房に関するアンケート結果をHPに掲載しました。

乳房画像分科会、MR分科会

JRCART分科会news.006

分科会掲示板の開設のお知らせ

Jun. 2008

6月17日より、HPの会員専用ページに各分科会の掲示板を開設しました。

会員ならどなたでも、書き込み可能です。ご利用をお願い致します。

尚、学術部では各分科会専用MLを作成すべく皆様に分科会登録をお願いしてまいりました。しかし、開設したHPの掲示板が、分科会専用MLと同等の機能を有し、さらに会員どなたでも参加可能なことから、分科会登録制を廃止させていただきます。

ご理解とご協力を賜るようお願い申し上げます。

学術部 久保田 利夫、浅妻 厚

- 2 会員から「SPECT/CT」、「64列心臓CTにおけるNon-βブロッカー」について質問があり、ML上で意見交換がなされた。この質問は匿名希望の方から学術部に問い合わせがあり、その方に代わり学術部が質問したものでした。今後HPの分科会掲示板でも同様な方法での質問も可能です。掲示板のご利用をお願い致します。

平成20年度全国赤十字病(産)院診療放射線技師 業務研修会速報

総務部 辻 秀憲

平成20年6月2日(月)～3日(火)の2日間にわたり、会員108名(69施設)出席のもとに日本赤十字社201号室にて業務研修会が開催されました。

挨拶には、日本赤十字放射線技師会 益井謙会長、日本赤十字社 医療事業部長 神波豊様に、そして、本社講演として医療事業部企画課長 大野博敬様による「これからの医療体制と赤十字病院について」、55周年特別記念講演は、(社)日本画像医療システム工業会 野口雄司様による「医療機器の安全管理体制及び診療報酬上での評価」、学術講演は、乳房画像分科会代表世話人 さいたま赤十字病院 尾形智幸様に「知っておきたい乳腺診断の流れ」を講演していただいた。

会員研究発表は、16演題あり、今回は、乳房画像診断を中心に、研究発表を集め、そのうち、7演題が発表された。また、MR、乳房画像分科会より1演題ずつの発表があり、一般演題は、7演題であった。それぞれ活発な質問や意見交換が飛びかわされ、有意義な研究発表であった。そして、日本赤十字放射線技師会が、リニューアル化したHPを紹介、全国的な基盤連携がされるように、各会員にもID・パスワードが配布されることとなった。当技師会の更なる発展進化の紹介であった。2日(火)の午後4時から、定期総会が行われた。今回は、議事録作成となり別報告となる。3日の午後3時には研修会が終了し、その後、各ブロック別連絡会議が行われた。午後4時には、扉を閉めて、全行程を終了しました。

以上

平成20年度全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会出席者名簿

施設名	会員氏名	会員氏名	会員氏名	会員氏名
北海道ブロック				
伊達	竹内 佳輝			
釧路	高谷 義人			
北見	伊藤 卓也			
東北ブロック				
八戸	四戸 哲夫	坪田 敏行		
秋田	三浦 司			
石巻	山内 佑一	森 智哉		
仙台	鈴木 陽			
福島	佐藤 勝行			
東部ブロック				
水戸	山縣 徳治	千木崎 信介		
古河	舘野 誠			
芳賀	武藤 美子	飯村 通		
大田原	檜山 操	山下 明		

足利	茂木 常男	中里 明	早乙女 加苗	深澤 千穂
前橋	久保田 利夫	貝瀬 宏子		
原町	新木 由香			
さいたま	尾形 智幸	黒田 順平		
小川	小川 清			
深谷	清水 文孝	川合 佳代		
成田	前川 栄寿	阿部 真波		
医療センター	鈴木 利男	大永 貴弘	増田 明宏	
武蔵野	少路 進			
大森	樋口 新一	古屋 賢一		
横浜市立みなと	梅原 嵩	飯田 友紀		
山梨	渡邊 圭介			
長岡	林 智	小林 潤	西潟 貴幸	
中部ブロック				
富山	土肥 弘明	大橋 英靖		
金沢	片山 典明			
福井	石田 智広	荒井 望		
長野上山田	松山 繁			
安曇野	関 利明	片倉 麻友		
下伊那	伊藤 保			
飯山	佐藤 文彦			
高山	田中 鮎美			
岐阜	川口 真奈美			
静岡	渡辺 友香			
浜松	松山 秀夫	布施 拓		
伊豆	東 茂			
裾野	庄司 智昭			
名古屋第一	伊藤 哲朗	長谷 宏美		
名古屋第二	新美 孝永	才賀 治	村瀬 多美	
山田	菊川 聡	柴原 卓彦		
近畿ブロック				
大津	鈴木 寿恵	田中 千賀		
長浜	西関 剛	木村 真恵		
京都第二	辻 秀憲	西本 岳		
舞鶴	藤原 朗			
大阪	高津 安男			
高槻	松山 佳央			
姫路	岩見 守人	藤岡 護		
中町	神澤 孝明			
神戸	浅妻 厚	辻本 梨香	松田 智史	

中国・四国ブロック				
鳥取	上田 阿希			
松江	益井 謙	磯田 康範	古川 春美	
益田	松生 和也			
広島原爆	原本 泰博			
岡山	中曾 智佳			
庄原	西 秀治			
三原	藤井 麻由美			
徳島	米倉 広宣			
松山	西田 史生	大西 寛典		
高知	久保 克泰			
九州ブロック				
福岡	古賀 則夫	岡部 徳彦		
嘉麻	塚原 美能留			
長崎原爆	一瀬 弘之			
長崎原爆諫早	壁村 早苗			
熊本健管セン	樫本 恵利華			
熊本	白石 修	藤井 竜一		
大分	戸口 豊宏	永嶋 しのぶ		
鹿児島	的場 優佳			

第55回 定期総会 議事録

1. 日 時 : 平成20年6月2日(月) 午後4時～5時
2. 会 場 : 日本赤十字社 本社201号室
3. 出席者 : 日本赤十字放射線技師会 会員 108名
4. 議事録作成人 常任理事 総務担当 辻 秀憲
5. 総会次第

- ① 開会の辞
- ② 会長挨拶
- ③ 表 彰
- ④ 議長選出
- ⑤ 総会議事運営報告
- ⑥ 議事録署名人選出
- ⑦ 議事

第1号議案	平成19年度事業経過報告
第2号議案	平成19年度決算報告
第3号議案	平成19年度監査報告
第4号議案	平成20年度事業計画(案)
第5号議案	平成20年度予算(案)
第6号議案	その他

- ⑧ 役員挨拶
- ⑨ 議長解任
- ⑩ 新入会員の紹介
- ⑪ 閉会の辞

上記の総会次第に基づいて辻理事の司会より開催する。当技師会 益井会長より挨拶がはじまり、表彰に移る。

表彰委員長の戸口理事により紹介される

功労賞は、8名 奨励賞は、1施設 感謝状は 1名

表彰が終わり、議長選出となる。会場より立候補がないため、執行部より2名を推薦した。

福岡赤十字病院 古賀 則夫様 浜松赤十字病院 松山 秀夫様

まず、総会議事運営報告(資格審査報告)を事務局の磯田理事より報告

本日の出席者 108名、委任状提出者 1032名、合計 1140名(94%)の確認より、会則第20条の規定に基づき本総会は成立しますと報告。

議事録署名人の選出は、会場より立候補がないため、議長より2名推薦。

松江赤十字病院 古川 春美 様 大分赤十字病院 永島 しのぶ様

議長の進行により議事に入る。

本会の動き（定期総会報告）

日赤放技ニュース

第2号

第1号議案から第3号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入る

Q：ブロック活動費7ブロック予算はあるが、4ブロックしか活動していないのは、なぜか。（小川赤十字病院 小川）

A：地域的な問題があり、活動しにくいブロックがある。今後、ブロック理事のMLの有効活用、また、技師長MLも展開して行く。それらの交流の中で、ブロックの活性化も行いたい（益井会長）

Q：繰越金の約400万円より、リニューアルHP費等に使用しては、どうか

（足利赤十字病院 茂木）

A：HP改定費用は特別積み立て基金で賄い（全国理事会承認済み）、慶弔費・分科会活動など不足の出費に備えたい。（益井会長）

その他、質問がないため、採決にはいり、第1号議案から第3号議案までは、承認された。

次に第4号議案から第5号議案まで一括して執行部より報告。

報告後、質問に入る。

Q：分科会活動について、予算はいくらか。（小川赤十字病院 小川）

A：1分科会 3万円。今年度は、治療、RI、医療情報を加えます

（久保田理事）

追加発言：活動の活性化のために、活動費に配慮いただきたい。（小川赤十字病院 小川）

Q：収入・支出のバランスが良くないのではないか。（福島赤十字病院 佐藤）

A：会誌部数の削減、理事会開催数の減少する予定であるので、少しは、バランスがよくなると思います。（前川理事）

選択と集中化を図り、教育費を捻出していく予定である。（益井会長）

Q：事業収入費を別にしたらどうか。（足利赤十字病院 茂木）

A：書式については理事会で協議を続け、専門家の意見も取り入れたい。（益井会長）

その他、質問がないため、採決にはいり、第4号議案から第5号議案までは、承認された。

役員紹介については、議事報告で紹介のため、割愛させていただく。

以上にて、議事を終了したので、議長は解任となった。

なお、時間の都合上、総会の主旨の議事については、承認されたため、総会次第最後の新入会員紹介については、来年、発行される会誌を参照していただくように会員の皆様に理解を求めた。最後、中里副会長に閉会の辞をもって、総会は終了となった。

以上

平成20年 月 日

議事録署名人 _____ (印)

1) 平成20年6月末現在の新入会（敬称略）

名古屋第一赤十字病院	臼井 友彦、山崎 絵莉
高知赤十字病院	高橋 良幸
長岡赤十字病院	小林 潤、西潟 貴幸
高山赤十字病院	田中 鮎美
大分赤十字病院	藤澤 有希
松山赤十字病院	大西 寛典
姫路赤十字病院	内海 武彦、天川 善晃
前橋赤十字病院	関口 美雪
武蔵野赤十字病院	岸 靖久、瀬川 達矢、平林 奈緒子
大阪赤十字病院	中村 典子
日本赤十字社医療センター	大永 貴弘、曾田 明宏
和歌山医療センター	木田 岳人
徳島赤十字病院	米倉 広宣
熊本赤十字病院	藤井 竜一

2) 平成20年6月末現在の退会（敬称略）

高知赤十字病院	片岡 幸子
富山赤十字病院	室谷 正吾
横浜市立みなと赤十字病院	元日田 和規、千葉 調
飯山赤十字病院	中沢 正司
松山赤十字病院	定成 弘明
伊達赤十字病院	池田 英二
神戸赤十字病院	丹波 夕子
長野赤十字病院	梶川 佳子
福井赤十字病院	雨森 美江
北見赤十字病院	森谷 ゆかり
諏訪赤十字病院	花岡 宏行
秦野赤十字病院	川口 麻里
小清水赤十字病院	高橋 和弘
武蔵野赤十字病院	細野 油紀夫
引佐赤十字病院	名倉 邦彦
高松赤十字病院	藤澤 亜季
名古屋第一赤十字病院	草田 行雄
神戸赤十字病院	久保 郁子

3) 平成20年6月現在の会員数

平成19年度末会員数	1210名
新入会員数	20名

退会者数	19名
平成20年度会員総数	1211名

平成19年度日本赤十字放射線技師会 第6回理事会 議事録作成書

- 1、 日時 平成20年 3月14日（金） 理事会 13:00～17:00
- 2、 場所 日本赤十字社 本社403号会議室
- 3、 出席理事 益井 謙、中里 明、久保田利夫、浅妻 厚、清水文孝、前川栄寿
石田智広、新美孝永、戸口豊宏、磯田康範、辻 秀憲
- 4、 議事録作成人 辻 秀憲
- 5、 審議事項
 - ①学術報告（業務研修会等）
 - ②企画報告（HPについて）
 - ③広報報告（会誌について）
 - ④組織、表彰報告（アンケート、表彰について）
 - ⑤財務報告（決算、予算案について）
 - ⑥全国理事会議案について
 - ⑦その他

会長より、年度末の多忙のところ、各理事の活発な行動において、今年度の目標の成果が出たことに感謝しますと表明し、議題に入る

◎学術部より（久保田理事、浅妻理事）

（1）活動・事業報告

①業務研修会について

- ・演題数は、14演題、（一般7、要望5、分科会より2）
- ・日程案を表示。第1日目は、AM9:30より受付開始。16:00より総会開始。第2日目は、AM9:20開始。15:00終了が提案される。協議の結果、本社講演は、1時間を予定、HP紹介に30分時間を割り当て、55周年特別記念講演は2時間とすることに決定。

②19年度収支報告

- ・分科会活動費として、77,715円使用
- ・MR／乳房分科会のアンケートの通信費、新医療代と送料代その他抄録用のCD、通信費上記合わせて、94,611円の支出

③事業報告

- ・会員の資質向上のために業務研修会を開催
- ・3分科会の立ち上げ（CT・MR・乳房画像）
- ・応募演題の審議のため、研修会プログラム委員会を設立
- ・ML、HPの活用を推進。会員相互の連携と連帯を広域的・継続的に可能とする

（2）事業計画案

- ・業務研修会を開催
- ・治療・RI・医療情報の3分科会の立ち上げ予定

◎企画部より（新美理事）

(1) 活動報告

HP、MLの整備、登録者数の加入促進に取り組み、会員相互の連携と連帯を図る

本会の動き（議事録）

日赤放技ニュース

第2号

基盤整備を実施し、本会の将来発展を願うべく機能的で会員参加型の新たなHP立ち上げに積極的に取り組んだ。

①日赤技師会HPリニューアル化

- ・会員への迅速な情報提供、
- ・各分科会活動への参加の環境作り
- ・業務研修会演題申し込みの環境作り
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定取得施設をHP上に公開によりマンモグラフィへの積極的な取り組み
- ・MLへの登録を促す環境作り

②技師会MLを活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・技師会MLの管理・運営を実施
- ・MLの紹介・勧誘にて、会員数が約120名に達し、現在も増えている

③日赤技師会HPの全面改正に向けての企画・提案

- ・日赤技師会の将来を見据えた機能的で会員参加型のHPの（次年度）立ち上げて積極的に取り組んでいる
- ・学術部をはじめとする各部との活発な意見交換にて、当技師会に最も相応しいHPの次年度導入にむけて可能となった

(2) 平成20年度活動案

HPの全面改訂により会員の連携と連帯を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計る。また、MLを活用した電子的運営を更に推進し、技師会活動の機能的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施する予定である。

①日赤技師会ホームページ（HP）の全面改正

- ・コンテンツマネジメント（CMS）導入による参加型HPに切り替える
- ・学術部と事務局へCMS導入し、会の機能的運営を実施
- ・会員への技師会ニュースや抄録集などの紙面印刷配布からHPへの全面移行を推進

②HPおよび技師会MLを活用した技師会活動の機能的運営の推進

- ・技師長MLを構築して、全国に、トップ同士のホットラインを結び付けていく
- ・ML登録者の更なる増加
- ・分科会活動の機能的運営の推進
- ・組織調査部と連携して、アンケート調査等の効率運営化を計る

③理事会MLの構築と機能的活用の推進

- ・理事同士の意見交換を活発に行う
- ・次世代に適合した運営および本会の活動を円滑かつ機能的に実施

◎広報部より（清水理事）

(1) 活動報告

①会誌編纂 現在、印刷・製本中

②技師会ニュース

- ・平成20年4月より技師会ニュース第1号として、4月中旬～下旬発刊

- ・内容・部数については、第5回議事録と同様
- ・今回は、総会委任状・情報交換会出席・組織調査書を冊子として同封する

③広報部総会資料

本会の動きなど多岐にわたった情報を会員に提供し、また、皆様のご意見を頂戴し、より有意義な会誌や技師会ニュースを発刊したいと考えます

- ・日本赤十字放射線技師会会誌2008. Vol. 49を発刊
- ・日赤放技ニュース第1号、2号まで2回発刊
- ・会誌の広告協賛会社は、29社集まりました

(2) 活動計画案

平成20年度広報部活動は、会告、お知らせ、本会の動き、分科会活動など多岐にわたった情報を会員に提供したいと考えます。

予定として

- ①日本赤十字放射線技師会会誌2009. Vol. 50を発刊
- ②日赤放技ニュース第1号から3号まで計3回発刊
- ③総会資料及び研修会抄録の発行
- ④発行物の一元化による経費削減
- ⑤ホームページとの情報の共有による、会員への有益な情報発信
- ⑥会誌、技師会ニュースの電子化を推進し、データベース化の実施

◎組織調査部より（石田理事）

活動報告と計画案

「認定資格現況調査」及び「医療技術部調査」について

- ①1月10日にて調査をしたが、再度、両調査を2月29日で締め切って、最終集計を出した。調査内容は、3月6日に全国赤十字施設へ速報版として発送
- ②アンケート回収状況については、93施設中87施設あり、回収率は94%であった
- ③アンケート開示については、
今後の計画として、
 - ・「認定資格現況調査」については、HP掲載として、次年度中で対応したい
 - ・「医療技術部調査」については、集計のみをHPで掲載。また、本会の立場の明確化や本社交渉、他職種との協議資料を作成し、次年度に対応したい

◎表彰部より（戸口理事）

(1) 日本赤十字放射線技師会表彰規定の改正案について

第4条の2 奨励賞は、学術部の推薦または会員の申請により、表彰委員会で選考を行い、理事会の承認を得るものとする。

(理由)「会員の申請」を追加する。

技術向上のためには、今後、発表の中でも、卓越した技術・功績で医療や社会に貢献できたと学術部が認めた場合は、1回の発表でも表彰の対象とする。日本医学会総会における発表も奨励賞の対象とすることを会員に総会時にお知らせする。同時に、日赤医学会の発表に関しては、会員の自己申請とすることも認識していただく。具体的には、HPに申請書を掲載し、HPより申請できるようにしたい。

(2) 第55回総会において以下の表彰を行います

①奨励賞について

施設は、山田赤十字病院、個人は、該当者なし

本会の動き（議事録）

日赤放技ニュース

第2号

②感謝状について

和歌山医療センター 川村 佳生

③功労賞について

各施設の退職者 8人

◎財務部より(前川理事)

(1) 19年度の収支報告について

収入について会費は、1,216名（退職者を含む）で完納である

支出についてブロック活動費、全国理事会費、常任理事会費(6回)、各担当理事活動費、WEBサイト更新費等

収支については、3月31日決算のため、詳細な収支は出せない。4月の全国理事会にて報告。

(2) 平成20年度の予算案について

ITインフラ整備費（HP管理費・サイト更新費）、会議費等について議論する。

詳細な費用については、全国理事会にて報告。

◎総務より(辻理事)

業務研修会・総会時の各理事の役割分担について報告。

今回は、HP紹介のため、会場にてネットが使用出来る環境にする。

以上

平成20年 月 日
監事署名捺印

_____ 印

_____ 印

平成19年度日本赤十字放射線技師会全国理事会議事録

日 時： 平成20年 4月11日（金） 全国理事会 13:00～17:00

場 所： 日本赤十字社 本社403号会議室

出席理事：＜会 長＞ 益井 謙

＜副会長＞ 黒田順平、中里 明

＜監 事＞ 鈴木利男、松山 繁

＜理 事＞ 久保田利夫（学術）、清水文孝（広報）、石田智広（組織調査）
新美孝永（企画）、戸口豊宏（表彰）、前川栄寿（財務）、
磯田康範（事務局）、辻 秀憲（総務）

＜ブロック理事＞ 川井明彦（北海道）、林 智（東部）、福吉正利（中部）

井澤秀恭（近畿）、佐藤 繁（中・四国）、赤澤 武（九州）

【委 任】 山縣徳治（副会長）、浅妻 厚（学術）大隈康之（東北ブロック理事）

議事録作成人： 辻 秀憲

議題内容： 1、平成19年度事業報告について
2、平成20年度事業計画案について
3、監査報告について
4、第55回定期総会について
5、業務研修会について
6、その他

会長所感

今年度、我々新役員の活動内容を本日参加の全国ブロック理事に報告します。我々の成績表・通信簿と思って、精査ご検討いただきたい。承諾を得れば、会員に総決算として総会で報告したいと思います。

監事、常任理事、ブロック理事の自己紹介をし、議題に入る。

議題1 平成19年度事業報告について

◎ 総括(益井会長)

新役員体制により、新しい時代にふさわしい新しい技師会をつくり上げる事を目標に、本年度もその使命に即して、各部がそれぞれ活動をしてきました。

各部の報告をお願いします。

◎学術部（久保田理事）

活動・事業報告

- (1) 会員の資質向上のために業務研修会を開催
- (2) 3分科会の立ち上げ
- (3) 応募演題の審議のため、研修会プログラム委員会を設立
同委員会の構成員は、会長、副会長、常任理事のメンバー
- (4) ML、HPの活用を推進

◎広報部より（清水理事）

活動・事業報告

- (1) 日本赤十字放射線技師会会誌2008. Vol. 49を発刊
(2) 日赤放技ニュース第1号から2号まで2回発刊

(3) 会誌の広告協賛会社は、29社

◎福利厚生報告(磯田理事)

慶弔規定に基づき、祝電2名、弔電1名について行った。

◎組織調査部より(石田理事)

活動報告

(1) 平成19年4月に各施設の技師長・課長宛に会員台帳の調査を行い、総会までに現況把握を行った。

(2) 平成19年12月に全国赤十字病院の放射線技師の「認定資格現況調査」及び「医療技術部調査」について実施。

調査内容は、3月6日に全国赤十字施設へ速報版として発送

(質問) マンモの認定を日赤技師会で開催する話はどうなったか。(赤澤)

(返答) 乳房画像分科会主導で更新講習会等を検討していただきます。(会長)

◎表彰部より(戸口理事)

(1) 日本赤十字放射線技師会表彰規定の改正案を行いました。

- ・発表の中でも、卓越した技術・功績で医療や社会に貢献できたと学術部が認めた場合は、1回の発表でも表彰の対象とする。日本医学会総会における発表も奨励賞の対象とすることを総会時に報告する。
- ・功労賞の場合、次年度退職者も該当とする。尚、会に対して不利益を生じさせた者に関しては対象外とする。
- ・日本赤十字技師会に入会し、勤務25年以上、年齢55歳以上の会員も表彰の対象とする。

(2) 第55回総会において以下の表彰を行います

①奨励賞について

施設は、山田赤十字病院 個人は、該当者なし

②感謝状について

和歌山医療センター 川村 佳生

③功労賞について

各施設の退職者 8人

◎財務部より(前川理事)

19年度一般会計決算報告書について

収入：会費は、1,216名(退職者を含む)で完納である。

業務研修会費、会誌広告収入等

支出：会議費(常任理事会・理事会費)、ブロック活動費、各活動費、会誌発行費等
詳細については、4月に配布時の総会資料を参照願います。

◎企画部より(新美理事)

活動報告

HP, MLの整備、登録者数の加入促進に取り組み、会員相互の連携と連帯を図る基盤整備を実施し、本会の将来発展を願うべく機能的で会員参加型の新たなHP立ち上げに積極的に取り組み、内容として、日赤技師会HPリニューアル化、技師会ML

を活用した技師会活動（学術部をはじめとし）、当技師会に最も相応しいHPの次年度導入にむけての機能的運営の推進を行った。

議題2 平成20年度事業計画案について

◎ 総括（益井会長）

チーム医療における赤十字の存在意識（レゾナードール）をより確かなものにする為に、会員相互が「もっとクロス！」し、連携と連帯を深める「計画」を立て続けていかなければなりません。MLは、まさにその計画であり、HPは、赤十字病院の医療の質向上へむけての有益な媒体であり、今後の計画完遂に向け更なる充実を計るものであります。

各部の事業計画案をお願いします。

◎学術部より

事業計画案

- (1) 平成20年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会を開催
- (2) HP・MLなどの活用した学術分科会活動を推進し、会員相互の連携、資質向上に努力します。
- (3) 治療・RI・医療情報の3分科会の設立に努力します。

◎広報部より

活動計画案

平成20年度広報部活動は、会告、お知らせ、本会の動き、分科会活動など多岐にわたった情報を会員に提供したいと考えます。

予定として

- (1) 日本赤十字放射線技師会会誌2009. Vol. 50を発刊
50号という節目を踏まえ、記念号の企画を取り入れ
- (2) 日赤放技ニュース第1号から3号まで計3回発刊
- (3) 総会資料及び研修会抄録の発行
- (4) 発行物の一元化による経費削減
- (5) ホームページとの情報の共有による、会員への有益な情報発信
- (6) 会誌、技師会ニュースの電子化を推進し、データベース化の実施

◎福利厚生より

活動計画案

ブロック理事・委員との連携を図るために、HPを活用し、MLを構築して情報の効率化を目指し、すみやかな対応を行う。

◎組織・調査部より

活動計画案

- (1) 平成20年度も継続して、会員台帳を充実
- (2) 平成19年度の調査アンケート「認定資格現況調査」「医療技術部動向調査」の結果報告については、早期にHP等で公表します。
- (3) 医療技術部設置における調査結果について、本会と各施設の共同歩調の一環として要望集約資料の作成を目指します。

◎表彰部より

活動計画案

表彰規定に基づき、功労賞・奨励賞・感謝状を各ブロック理事・委員より該当者を選出

していただきます。特に、功労賞については、今年度と翌年度の退職者（日本赤十字技師会に入会し、勤務25年以上、年齢55歳以上）が対象となります。

◎財務部より

平成20年度予算案について

(1) 収入：会費は、1,210名の会員より。その他は、19年度予算額と不変

(2) 支出：会議費、会誌発行費をUPします

今年度よりサーバー管理費（セキュリティ管理費として）新設します

(3) HPリニューアルのため、特別基金より捻出

(質問) HPリニューアル費は、予備費より支出してはどうか(林)

(返答) 会則23条により第4条の技師会活動を強固にするために運用とあり、そのために基金より捻出します(会長)

◎企画部より(新美理事)

活動計画案

HPの全面改訂により会員の連携と連帯を推進し、赤十字病院の医療の質向上へ向けての有益な情報媒体として更なる充実を計る。また、MLを活用した電子的運営を更に推進し、技師会活動の機能的運営をさらに推進し、技師会活動の機能的運営を支持する基盤整備を実施する予定である。

これより、ムツダ商会よりHPリニューアルについて紹介され、理事全員が試写会を見入る。

活動報告用コンテンツ更新システム(CMS)等を紹介され、内容として、いろいろな速報・情報を掲載される。また、会員より、各分野に質問・報告等を書き込める内容を紹介。

議題3 監査報告について

鈴木監事より、会計監査の結果、預金通帳ならびに関係帳票等、適正に処理されていることを認めますと報告された。

議題4 第55回定期総会について(辻理事)

平成20年6月2日(月)午後4時より、本社201号室にて開催します。

本日、全国ブロック理事さんより、承諾していただいた件につき、表彰、平成19年度事業・決算報告、平成20年度事業案・予算案等を報告していただきます。

議題5 業務研修会について(久保田理事)

平成20年6月2日～3日、全国赤十字病(産)院診療放射線技師業務研修会を開催します。

本社講演・学術講演・55周年特別記念講演・技師会HP紹介・会員研究発表(一般・要望演題・分科会報告)を行います。

議題6 その他

各ブロック報告

・中部ブロック(福吉ブロック理事)

- 中部ブロック学術研修会を今年発足の計画である。
- ・ 中国・四国ブロック（佐藤ブロック理事）
四国地区からの情報の連絡がないため、検討したい。

- ・九州ブロック（赤澤ブロック理事）
今年のブロック学術研修会は、福岡赤十字病院が担当です。MLの参加を依頼します。
- ・近畿ブロック（井澤ブロック理事）
ブロック学術研修会担当が、中町・柏原赤十字病院は無理となり、今回も参加されておりません。
- ・東部ブロック（林ブロック理事）
今年のブロック学術研修会は、前橋赤十字病院が担当で、20施設参加です。
- ・北海道ブロック（川井ブロック理事）
ブロック学術研修会は、毎年、9月に総会として開催。4月に札幌で代表者会議を行い、全国理事会の報告をしております。

その他

- (1) 長野赤十字病院上山田病院が、長野赤十字病院附属上山田診療所に変更になりました。
(松山監事)
- (2) 昨年の日赤医学総会に、評議員として日赤放射線技師会より出席しました。赤十字の体質に変化の兆候を感じた。今後、我々の活動や希望を織り籠められるよう、学術部と共に参加したいと思います。(益井会長)

以上

平成20年 月 日

監事署名捺印

_____ 印

_____ 印

